

第19回 市長と話そう会（武雄焼振興会議）

日時 平成30年8月21日（火）19:00～20:30

場所 武雄市役所3F 語らい処

参加者 武雄焼振興会議4名



市民の皆さまと市長が直接語り合う『市長と話そう会』第19回目は、武雄焼振興会議の皆さんとの意見交換で、多数のご意見をいただきました。内容を抜粋して掲載しています。《掲載にあたり、一部個人のプライバシーに関する部分などについては省略しております。》

【市長より】

伝統と革新があって、伝統がしっかりとつながっていくというのが大事。伝統を生かして革新をするという今の武雄焼の流れは面白い。

これからまちが豊かになるには、命を守る防災、福祉などはもちろん大事だが、生きていくのを大事にするために文化は外せないワードだ。

行政、それから生きている私たちが、しっかりと武雄にある貴重な文化を、今生きている人に合わせながら、未来に受け渡していく必要がある。

【意見交換】

参加者：強く思っているのは、文化財古窯跡の再調査のことである。

平成29年秋に行われた調査の報告を聞かせてほしい。

また、平成30年度の調査の見学と、申請することで調査物を閲覧できる場が欲しい。調査が一段落したら、少しずつでも新しい情報を提供してもらいたい。

市長：調査報告については、1年ごとの報告書でなく2022年までの調査をまとめた1つの報告書で行う。調査の見学、また整理が終わった調査物の閲覧については、申請してもらえれば可能。原則非公開のものなので、できれば団体でまとめて申請をしてほしい。

参加者：2019年9月に武雄焼の陶器市をしたい。

焼き物屋主導で一生懸命動こうと思っているので、足りないところを市に協力してほしい。

市長：一緒になって行っていくということが、これからのまちづくりで大事。

窯業振興は商工課、観光 PR は観光課、食育は健康課など市役所もぜひ協力したい。

参加者：新幹線が 4 年後に開通するというところで、駅ロータリーを歩行者天国にして焼き物市などやりたい。そういうイベントの予定はあるか？

市長：現在、新幹線のプロジェクトで、ワークショップの段階。ここで降りようと思わせるような、駅に人が集まり、滞在するしかけをこの 4 年で考える。今はまだ（イベント等）予定はないが、広場などでできたら活用してもらいたい。

参加者：思い切って武雄焼きを東京で PR したい。

昔、武雄古唐津焼協同組合で、市から 40 万円の助成があった。宿泊代ではなく、会場使用料などを一部助成してほしい。

市長：現在も補助金の制度はあり、展示会などで活用してもらいたい。商工会とも調整をしながら話を進めたい。

東京で展示するなら、あえて少し変わったところで行うと話題になる。それで人が来るかどうか分からないが差別化し、違う層からの話題づくり、アプローチをして、従来の発想から脱却していく必要がある。

参加者：武内町飛龍窯で 10 月 29 日に深海宗伝没 400 年記念式典がある。

それをきっかけとして毎年 10 月 29 日に飛龍窯の向窯で窯焚きをするなどイベントを継続していきたい。

市長：窯は焼き物以外焼けないのだろうか。最初から焼き物を出すと、焼き物をよく分からない人の入り口が狭くなる。

参加者：ピザ、パン、グラタンなどを焼くことができる。他には遊びで登り窯サウナをした者もいる。登り窯のサウナは珍しい。全国から人が来るかもしれない。

市長：新しい登り窯の使い方で、話題性ある。

他にも焼き物は酸化など化学に通ずるところがあるので、理科の自由研究の講座を行うなど、子どもに興味をもってもらおう取り組みも面白いかもしれない。